

## 計量器測定器製造業における死傷災害発生事例（2017年）

年	月	発生時	死傷災害発生事例	年齢	起因物(小)	事故の型	労働者規模
2017	1	10~11	工場内において、作業者が研磨キで加工終了後、研磨キのスイッチを切らずTELのため機械の前より離れた時、被災者が次の作業のため研磨キに掛けてあった製品約100コを右側よりエアガンで清掃している時、ト石が回転していないと思い奥の製品を取る時ト石に左手示指中指先がふれ負傷した。	64	153	8	1~9
2017	1	10~11	工場内（出荷の為の作業中）、約1m×0.5mの直角定規を入れた木箱のカナグ止めのところを、テープで巻いていた時、直角定規（約30kg）が傾き右手示指、中指にあたり打撲した。	38	611	7	10~29
2017	2	18~19	作業エリアの隣りにある倉庫内の通路にて電卓を探していた。後ろ向きで少し下がったところ、通路も狭くなっており、部品棚の足につまずき、よろけながら転倒し、お尻を強打した。翌朝痛みが激しいため病院を受診したところ、診断が下り、そのまま入院することとなった。	47	417	2	100~299
2017	5	16~17	測定機の石テーブルの上で定期検査作業中、足場台（台形）の安全ロックが完全にセットされておらず、足場台の右側が内側に倒れ、バランスを崩し石テーブル上に落下し、右手右尻を強打した。	41	391	1	1~9
2017	6	12~13	昼食後の歯磨きのために事務所2階から女子トイレに向かって階段を下っていたところ、踊り場手前3段目の所で階段を踏み外し、踊り場まで落ち転倒した。その際に右足甲を骨折した。	50	413	1	300~499
			当社、工場において、納品された鉄フラットバー				

2017	7	10~11	(28mm×50mm×5500mm、60kg/本)を業者のトラックから荷降ろしする際に、トラック後方のアオリ(アオリ高1.4m、荷台高1.0m)の上から左手を入れ、鉄フラットバーの端を片手で持ち上げたところ、無理な姿勢だったために左肩に負担が掛かり受傷した。今後は、荷台に上がり、無理のない姿勢で、2名以上で作業を行うこととした。入院・手術のため休業となった。	49	921	19	1~9
2017	7	9~10	1階と2階の間を冷房のない倉庫内で荷(製品)の上げ降ろしをしていた。被災者は作業中に急にめまいがして倒れた。周りにいた者に声をかけられ、涼しいところに導かれて休息し動けるようになった。発症日の2日前から、仕事に足がつったり、めまいがしていた。	48	715	11	300 ~ 499
2017	7	14~15	電子硝子加工課のエッチングルーム内で、付着したフッ化水素を含むエッチング液を、水槽に入った井水ですすぐ作業をしていた。通常使用している長靴が破れていたため、丈の短い長靴を代用していた事と、保護用の耐酸エプロンの紐をゆるめていた事で両足のカバーができていない状態となり、水槽からこぼれた井水がかかり、災害が発生した。	27	519	12	10~ 29
2017	7	20~ 21	自動車用メーター類の組立作業に従事していた。夜勤勤務時間の休憩時、作業場である建屋2階より1階休憩所に移動中、階段の途中で貧血症状が現れ、倒れ込みながら階段を転落し受傷した。	27	413	1	1000 ~ 9999
2017	7	15~ 16	メーター組立ラインにて、小ひじ金セット作業を実施中に、後工程の上ケース締付工程のNG処理を行うため、空パレットを前工程者に要求したが、空パレットを流すタイミングが悪く、ワークを掴んだまま供給機がライン上で停止した。供給機よりワークを取り外そうと、メーター下部に左手を添え、右手で操作ボタンを押したが、押し間違えたためにワークが下降し、パレット治具とワークとの間に指を挟まれた。	53	167	7	100 ~ 299
			鑄造棟において、溶解された銅合金を柄杓の7合目まで入れたもの				

2017	7	16～ 17	を持ち、2～3歩歩行したところバランスを崩し、こぼれた銅合金が足にかかり負傷した。	49	521	11	10～ 29
2017	9	15～ 16	当該事業所内、安全帯ランヤード梱包作業場で、作業者左側の回転式ラックに保管してある縫製済み製品を取る際、通常であれば真横30cmで取れるよう回転させるところを、60cm離れた場所の物を無理な姿勢で取ろうとした為、左肩肩甲骨の関節を痛めてしまった。	31	921	19	50～ 99
2017	9	11～ 12	大物部品の入った箱（約10kg、奥行80cm）を現場作業棚の下段へ収納させる際に箱をスライドさせ収納しようとした所、作業棚のパイプに引っ掛かりそれを取り除こうと上に持ち上げたりずらしたりしている際に、腰部に負担が掛かり痛みが発生したものである。	33	611	19	100 ～ 299
2017	9	11～ 12	第二機械場にて、旋盤で金属切削後、切粉を端に寄せて持ち場に戻ろうとしたところ、足元に金属片（ステンレス切削片）が出っ張っており、それに当たった際に左足に裂傷が発生した。	53	521	8	50～ 99
2017	10	10～ 11	本社工場へ製品を輸送後、本社工場にて製品を降ろす作業をしていた。網かごに入った製品を吊り上げ作業中、バランスを保つため、スリングロープをきっちりかけようと、立ち位置から中腰になった際、腰を痛めた。	49	921	19	10～ 29
2017	11	17～ 18	5号機のプレス工程の部分で禁止されていた手を入れてエアー掛けをしていたところ、プレス機が移動し右手が機械に持って行かれたがプレスする前に手を抜いた。手を抜いた時に右手甲と切り手を強く打った。	42	921	19	50～ 99
2017	11	9～ 10	大型ガスメーター組立職場にて、下ケースを両手で持ち上げ、作業台まで運搬する際、足元が確認しづらい状態であった為、元々置いてあった木製パレットに右足が躓き転倒した。その時に持っていた下ケースのエッジ部が、左手親指付根付近に当たり、裂傷を負った。	29	417	2	100 ～ 299
			新しい工程に関する教育が開始され、その工程では十数種の部材を				

2017	12	12~13	5~10pcsまとめてピッキングし、組立ラインへ供給する作業のほか供給のための前準備で、少し屈んだ姿勢で30分程の軽作業やコンテナ一杯の部品を棚や台車に載せる入庫作業等があった。なかでも腰を捻る動作や、屈んだ姿勢での作業が腰への負担となり、腰が痛み始めた。上長に相談し、屈んだ姿勢での作業を低減させる等の措置を取ってもらったが、腰痛は治らず、診察・検査で腰椎椎間板症の疑いと診断を受け、その後、腰痛で会社を欠勤している。	48	611	19	300 ~ 499
------	----	-------	--	----	-----	----	-----------------

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to : [https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_06.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_06.html)